

平成 24 年 12 月 28 日

【照会先】

医薬食品局血液対策課

課 長 : 加藤 誠実 (内線 2900)

課長補佐 : 岡村 真一 (内線 2909)

献血推進係長 : 吉田 浩介 (内線 2904)

(代表電話) 03 (5253) 1111

(直通電話) 03 (3595) 2395

報道関係者 各位

平成25年「はたちの献血」キャンペーン

厚生労働省では、献血者が減少しがちな冬期において血液製剤を安定的に確保するため、平成25年の「はたちの献血」キャンペーン

(平成25年1月1日～2月28日) を行い、成人式を迎える「はたち」の若者を中心として、広く国民各層に献血に関する理解と協力を求めています。

1. 今年度の「はたちの献血キャンペーン」標語

想いをかたちに はたちの献血

2. 主催： 厚生労働省、都道府県、日本赤十字社

後援： 一般社団法人日本民間放送連盟、

一般社団法人日本民営鉄道協会、

一般社団法人日本コミュニティ放送協会

3. 厚生労働省が実施する主な事業

(1) キャンペーン 広報用ポスターの配布

官公庁、地方公共団体、全国の血液センター、献血ルーム等に幅広く配布し、国民に向けての広報啓発を行います。

想いをかたちに はたちの献血

献血キャラクター
けんけつちゃん

はたちの献血
キャンペーン
平成25年1月～2月

献血は、最も身近なボランティア。あなたのわずかな時間で、救える命があります。

安全性の高い血液の確保のために、成分献血と400mL献血にご協力をお願いします。

いつでも確実に患者さんに血液を確保できるよう、1年を通じて継続したご協力をお願いします。

若い人たちが、みんなが高齢者を支えていく時代です。10代、20代の方のご協力を、特にお願います。

肝炎ウイルスやHIVの検査を目的とする献血や、健康に不安がある方はご遠慮ください。その様な場合は、保健所またはかかりつけの医師等へご相談ください。

平成23年4月1日から、採血基準の改正により、これまで男女ともに18歳以上の方をお願いしていた400mL献血について、男性に限り17歳の方にもご協力いただけるようになりました。皆様のご協力をお願いいたします。

複数回献血クラブ 複数回献血クラブは、安全な輸血用血液を定期的に提供することを目的として運営しています。登録いただいた方には血液センターから「献血のお願い」や「献血キャンペーン情報」などのメールが届き、会員特典もございます。複数回献血クラブ 無料会員登録

【主催】厚生労働省、都道府県、日本赤十字社【後援】一般社団法人日本民間放送連盟、一般社団法人日本民衆放送協会、一般社団法人日本コミュニティ放送協会

(3) 省内献血及び骨髄バンクドナー登録会の実施

- ・省内献血の日時：平成25年1月7日（月）、8日（火）

(4) 内閣府政府広報（現在、決定しているもの）

- ・ラジオ（中山秀征のジャパリズム）

放送日：1月12日（土）9：30～9：50（予定）

F M東京他、J F N系全国38局ネットにおいて放送

- ・インターネットテキスト広告

掲載予定日：1月7日（月）～13日（日）

掲載サイト：Y a h o o ! J A P A N（予定）

- ・新聞広告

掲載予定日：1月28日（月）～2月3日（日）

掲載新聞：中央5紙、ブロック3紙、地方62紙

(5) 高校生向け献血テキストの配布

高校生（献血が可能になる16歳）の献血及び血液事業に対する理解を促進するため、高校生用及び教員用

「けんけつ HOP STEP JUMP」を全国の高等学校等6,236校に今後配布する予定



厚生労働省



厚生労働省

4. 日本赤十字社における「はたちの献血」キャンペーン

(1) はたちの献血キャンペーン記者発表会

日時：平成25年1月10日（木）12：30から

場所：ホテル ニューオータニ

(2) LOVE in Actionプロジェクト

- ご当地大作戦 in 岐阜（1月20日）、in 香川（2月11日）
in 熊本（2月23日）、in 鹿児島（2月24日）

各エリアのラジオDJやアーティストなどによるライブ&トークを行い、若者を中心とした世代に献血の必要性や協力を求めるメッセージを発信。

♥ LOVE in Action プロジェクトとは ♥

♥ 「献血は、愛のアクション！」 = 「LOVE in Action」というメッセージを届ける活動






♥ 日本赤十字社の様々な献血推進活動(Action)

という2つの意味をもっています。



5つのAction

<http://ken-love.jp/about.html>

-  **Action 1 ログマーク大作戦**
ログマークのパワーを使って献血推進を訴えていきます！
-  **Action 2 ラジオ大作戦**
"心のメディア"ラジオのパワーを通じて、人々の心にダイレクトに訴えます！
-  **Action 3 ご当地大作戦**
北海道～沖縄まで、全国各地の特色を活かしたご当地パワーで推進！
-  **Action 4 コラボ大作戦**
アーティスト・タレントを始め、企業などのコラボのパワーで展開！
-  **Action 5 リンク大作戦**
賛同者のブログ等にバナーを貼って、インターネットのパワーで伝えていきます！

【参考】

1. なぜ献血が必要なのか？

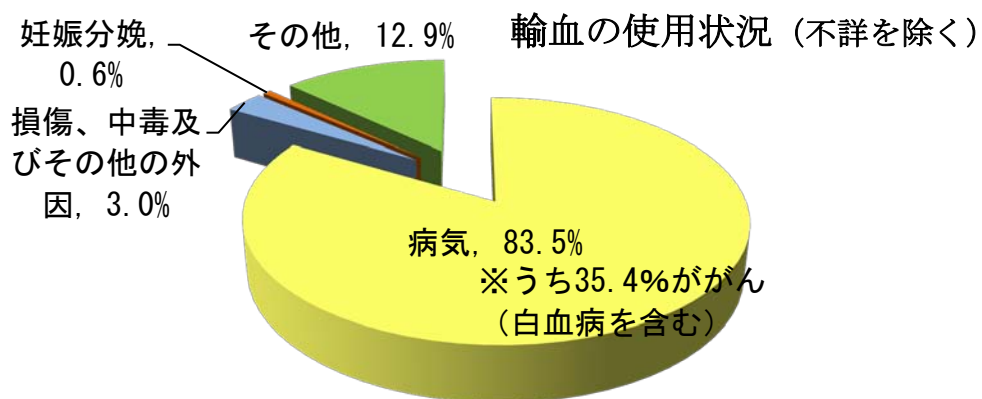
血液は、栄養や酸素を運ぶ、出血を止めるといった生命の維持に欠かせない役割を担っています。私たちの周りには、病気やけがで血液を必要としている人がたくさんいます。しかし、医療が発達した今日でも、血液を人工的に造ることはできません。医療を支える血液は、多くの方の善意による献血で支えられています。

血液製剤は長期間保存できるものではなく、血小板製剤などのように有効期間が採血後4日間と非常に短いものもあります。医療の現場では、輸血を必要としている患者さんに対して、安定的に血液を供給する必要があります。そのためには、季節を問わず、常に多くの方々からの善意の献血が必要とされています。

2. さまざまな病気の治療に使われ、一日に約 3,000 人の方が輸血を受けています。

輸血というと、交通事故など不慮の事故でけがを負ったときに使われるイメージがありますが、実際の輸血用血液製剤の使われ方をみると、そうしたけがの治療で使われているのは3%程度で、8割は病気の治療で使われています。その病気のうち、多くを占めているのが、がんの治療です。

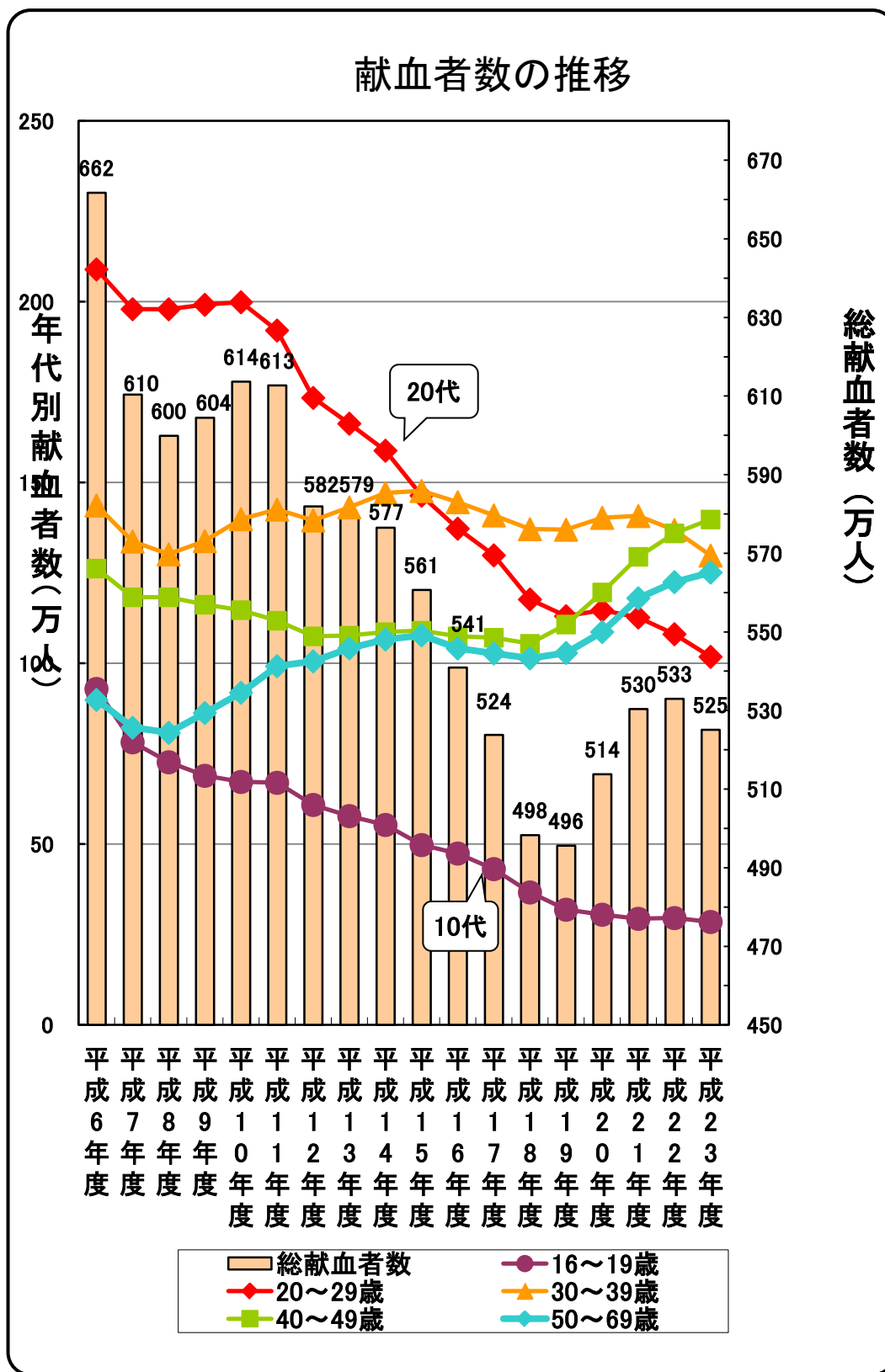
平成 22 年度に日本輸血・細胞治療学会が全国的な調査(2010 年輸血業務・輸血製剤年間使用量に関する総合的調査)を実施し、平成 22 年の年間輸血実施数が推計されており、約 120 万人(120 万人÷365 日=約 3,000 人/日)となっています。



(平成21年 東京都福祉保健局調べ)

3. 献血者数の現状

- ・ 平成 19 年度に過去最低ののべ 496 万人だった献血者は、平成 22 年度まで増加してましたが、平成 23 年度は減少しました。(平成 23 年度のべ 525 万人)となっています。
- ・ 10 代・20 代の若年層、30 代における献血者は依然として減少傾向です。



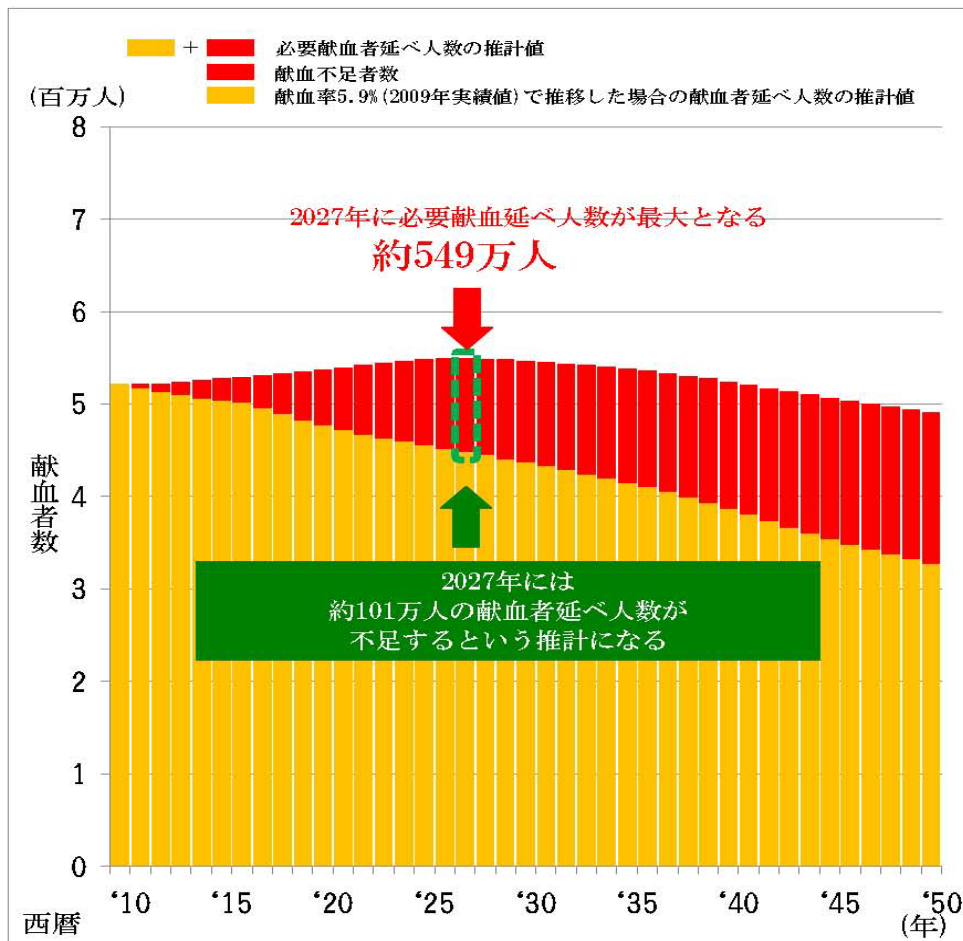
4. 献血者数の将来推計

- ・ 2027年には約101万人ののべ献血者が不足。

日本赤十字社のシミュレーションによると、現在の献血率(献血可能人口の献血率5.9%)のまま少子高齢社会が進展すると、需要がピークを迎える平成39年(2027年)には、献血者約101万人分の血液が不足すると推計されています。

必要献血者延べ人数のシミュレーション

出生率中位(死亡率中位)の場合



東京都福祉保健局がまとめた2007年輸血状況調査結果と、将来推計人口を用いて将来の輸血用血液製剤の供給予測数を算出し、供給に必要な献血者数を算出すると、2027年には約549万人必要となるシミュレーションになる。
また、2009年の献血率(=献血者延べ人数/献血可能人口)5.9%を今後も維持すると仮定し、将来推計人口より、仮定の献血者延べ人数を算出すると、2027年には、約101万人不足するというシミュレーションになる。

5. ～献血推進 2014～ 献血推進に係る新たな中期目標

平成 26 年(2014 年)度までの達成目標

項目	目標	H21 年度	H22 年度	H23 年度
若年層の献血者数の増加	10 代(注 1)の献血率を 6.4%まで増加させる。	6.0%	6.1%	5.8%
	20 代の献血率を 8.4%まで増加させる。	7.8%	7.9%	7.5%
安定的な集団献血の確保	集団献血等に協力いただける企業・団体を 50,000 社まで増加させる。	43,193 社	45,343 社	47,137 社
複数回献血の増加	複数回献血者を年間 120 万人まで増加させる。	984,766 人	999,325 人	1,001,516 人

(注 1)10 代とは献血可能年齢である 16～19 歳を指す。

※献血率算出における人口データ

平成 21 年度：平成 21 年総務省統計局公表 人口推計

平成 22 年度：平成 22 年国勢調査(人口等基本集計)2011 年 10 月 26 日公表

平成 23 年度：平成 23 年総務省統計局公表 人口推計

重点的な取組みについて

上記の目標を達成するため、以下に掲げる事項に重点的に取り組む。

① 献血の意義を明確に理解していただく。

献血推進にあたっては、献血の意義を国民に十分理解していただくことに努めるとともに、受血者の顔が見える取組みを一層強化する。

② 安定供給につながる若年層への対策に力を入れる。

10 代、20 代の献血者は、今後長期にわたり我が国の輸血医療を支える重要な世代である。

i) 10代への働きかけ

10代は、多くの献血者が人生で初めて献血を経験する世代である。

平成23年4月1日の採血基準の改定及び平成21年7月改訂高等学校学習指導要領解説保健体育編における「献血」に関する記載を踏まえ、10代の方々に献血の意義をよく理解していただき、初めての献血を安心して行っていただける環境の整備を一層図る。

ii) 20代への働きかけ

20代には、献血を経験したことがある方が多くいるが、その後リピータードナーにならず、献血行動からドロップアウトする方が多い世代である。献血を体験した方が、献血の意義を深く理解され、長期にわたりリピータードナーになっていただける取組みを強化する。

③ 献血することにより心の充足感が得られる環境を整える。

献血は相互扶助の精神に基づく尊い行為であり、献血者一人一人の心の充足感が、活動の大きな柱となっている。そのため、献血に協力いただけただけの方々が、心の充足感をより得られ、安心快適に献血を行っていただける環境を一層整える。